

「生理の公平」に向けて ～八王子から女性が生きやすいまちづくりを～

Toward the realization of “Period equality”
Building a city where women can live comfortably

グループ名：喜怒哀楽
橋本 美紀, 森本 美里
指導教員 青野 健作

創価女子短期大学 国際ビジネス学科 青野ゼミナール

キーワード：生理の公平, 生理の貧困, 女性のエンパワーメント, 女性が生きやすいまちづくり, SDGs

1. 目的と現状分析

本提案は、女性が生きやすい社会を、八王子市から実現していくため、女性の生理に伴う様々な負担を軽減することを目的とする。

日本には、「金銭的理由で生理用品を買うのに苦労した」という若者が5人に1人存在する（任意団体「みんなの生理」によるアンケート調査）。また、労働基準法第68条では、生理休暇の取得に関する法整備がされたが、その取得率は減少傾向にあり、現在は1%未満となっている（労組アンケート調査結果）。

近年、女性の社会進出は進む一方で、生理の貧困という問題や生理休暇の取得率が低く、女性が働きやすい環境が整っていないのが現状である。これらの現状を打開するべく、八王子市では、生理用品の無料配布など男女共同参画社会の実現に力を入れているが、普及に至っておらず課題は多い。

2. 提案内容

このような現状を踏まえ、女性が生きやすい街づくりをするために、以下の3点を提案する。

- ① 生理用品無料ディスペンサー（OiTr）の普及
- ② 生理休暇取得率の向上の取り組み
- ③ 女性が住みやすい街づくり

3. 提案の具体案

①生理用品無料ディスペンサー（OiTr）の普及

東京では、豊島区をはじめ、文京区、北区、板橋区などが生理用品無料ディスペンサーを提供するオイテル株式会社と協定を締結し、自治体が主体的に生理の貧困に取り組んでいる。

創価女子短期大学では、昨年、関東の女子大・女子短大で初めて、生理用品の無料ディスペンサーを設置するなど「生理のことをオープンに語る世界」の実現に向けて様々な取り組みを行ってきた。そして、東京富士美術館との協議を行った上で、東京富士美術館は日本の美術館で初めてOiTrを設置するに至った。

八王子市は、多摩地域の中心であるため、多摩エリアの自治体に先駆けて、オイテル社との協定を結ぶことで、まずは自治体の建物の女子トイレを中心に、OiTrの設置を促進することを提案する。そうすることで、女性が生きやすい社会を八王子市から実現することができると考える。

②生理休暇取得率の向上の取り組み

生理休暇の取得率は非常に低く、現在は1%未満である。この現状を変えるためには、経営層の意識変革が求められる。他方で、管理職の女性比率が著しく低い日本において、女性が積極的に生理休暇

を取得する環境が整っていないのも現実である。

近年、ESG 投資という考えが生まれ、SDGs を本業とする企業が増えるなど、企業の社会的責任（CSR）の捉え方にも変化が起こってきている。このような状況の中で、八王子市が主体となって、生理休暇の取得率が高い企業を公表し、SDGs に貢献する競争原理を促すことができると考える。

これにより、企業は SDGs に貢献しているというアピールに繋がり、女性は働きやすい企業を見つけることにも繋がる。また、就職後も、働きやすい職場環境で個人の能力を最大限に発揮でき、このことが男女共同参画社会に繋がると考える。こうして、企業・女性・まち全体が Win-Win-Win の関係を構築することが可能になると考える。

③女性が住みやすい街づくり

OiTr 設置の提案（①）は、スマートホンの使用が前提である。したがって、中・高生は、基本的に学内でのスマホ使用が禁止されるため、OiTr の使用が困難になる。他方で、生理現象は中学・高校から始まるが多いため、彼女たちの生理の貧困に対して手を差し伸べることが難しい。

このような問題意識のもとで、地元の商工会議所を始めとした八王子市の企業にスポンサーを募って、無料で生理用品にアクセスできる環境を作っていくことを提案する。具体的には、八王子市が主体となって、八王子市の企業のスポンサーを募集し、地元企業が中心となって、生理の公平をもたらす街づくりを促進していく。このことにより、学生生活における生理の負担を軽減することになり、このような環境で育った人材が、地元の八王子企業に就職し、女性が輝く社会の構築に繋がるといふ好循環が生まれることが大いに期待される。

4. おわりに

創価女子短期大学では、昨年来、「生理のことをオープンに語れる世界」の実現に向けて様々な取り組みを行ってきた。そして、生理には個人差があり、またその原因も家庭内暴力、経済格差、男性による無理解など、現実には可視化されにくく複雑で

ある。したがって、「生理の貧困」という問題ではなく、「生理の公平」という視点が必要であるという考えが必要であり、社会全体で変えていくべき課題であると考え。

OiTr の設置に関しては、八王子市のタウンニュースにも掲載され、私たちの先輩が独自に作成した Youtube 動画は現在 2,941 回の再生回数となっている。そして、その取り組みが社会人基礎力育成グランプリ（主催：一般社団法人社会人基礎力協議会）で日本一に結実した。このようなボトムアップの取り組みは、現場の「声なき声」を拾いながら活動を行うことから非常に効果的でもある。

ただし、この活動は地域や街づくり全体に活かしてこそ、真に女性が生きやすい社会が実現されるのであり、そのためには八王子市との連携が非常に重要になると考える。今後、八王子市が、教育機関や企業などと連携して、女性が住みやすい街として、先駆的な取り組みを行うことを提案する。

【参考文献】

- ・『#生理の貧困』（日本看護協会出版社、2021 年）
- ・「生理の不安なくしたい：学内に無料ディスペンサー」（タウンニュース八王子 2022 年 1 月 6 日）
<https://www.townnews.co.jp/0305/2022/01/06/607142.html>
- ・みんなの生理「日本の若者の生理に関するアンケート調査」最終結果（2021 年 7 月 16 日）
- ・「生理休暇」取得率 1%なぜ低い 国の最新調査 労組アンケ、職場の理解「ない」6 割（神戸新聞 NEXT、2022 年 9 月 13 日）
- ・ランドリーボックス #生理の貧困
<https://laundrybox.jp/magazine/hioka-04/>
- ・創価女子短期大学×SDGs「生理の貧困をなくそう！」（創価女子短期大学 HP）
<https://www.soka.ac.jp/swc/SwanDays/2022/02/10599/>
- ・「生理の貧困をなくそう (Period Poverty)【SDGs】（創価女子短期大学公式 Youtube チャンネル）
<https://www.youtube.com/watch?v=8vUKTJS7JRA>
（※URL の閲覧日はいずれも 2022 年 10 月 19 日）